

3 月 期

〈出典一覧〉

国語 出口顯

国語 中島岳志

『声と文字の人類学』一部改変

『思いがけず利他』一部改変

NHK 出版

ミシマ社

第一問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語については、注を参照しなさい。

A

文字という形で記されることで、それは石や金属、

羊皮紙や紙の表面に、物質としてとどまることになる。*グデイが特に考慮しているのはアルファベットの使用例であるが、文字を

書くことで読むということは、口頭でのコミュニケーションに半永久的な形態をもたらすことになった。人間の脳（思考・記憶）

の中にはなく、外部にコミュニケーション（言葉）を具体的なものとして定着させる。それはつまり記録としてメッセージの内容

が安定するということが、**B** 夢幻自在ではなくなるといえることである。これによって、書き記されている言葉や話題・議論

の内容を、くわしく吟味してみることが可能になる。読み書きによって、人間のコミュニケーションを長期にわたり保存し、

こまかく調べることができるようになったのである。「書く」ということが口頭による言語の流れをせきとめることによって、違う時

に違う場所で行われたことをひとつひとつ比べることができるようになる（*グデイ『未開と文明』より引用、以下特記のしない

引用はすべてこれによる）のである。

話としては消えていって音声のメッセージを記憶のみを頼りにして議論していた場合とは異なり、書くことによって、物質の形で

残ったものという確かな手がかりを介して検討していくこと、それが批評の余地を拡大させたのは、口承性の場合とは別の形

で議論が人々の目の前に展開されることになったからである。それと同時に知識の蓄積、ことに抽象的な種類の知識を蓄積する可

能性も増した。書くことは、記憶に頼り音声で伝承していくという情報の貯えの体系を変えた。それにより、コミュニケーション

の性質を、対面関係における限定的な場面ものからさらに広い範囲のものへと変えることになったのである。書くことには二つの

主要な機能がある。一つは貯蔵の機能であり、もう一つは脱脈絡化による文章の組み直しや検討である。

蓄積について、**C** 古代メソポタミア文明は、食料の生産・保管・分配、各地域から国家に税として送られる貢納品など

についての記録を膨大な文書として残し、経済活動を国家が独占・管理するようにしたのである。

むしろ、既存のものにとつてかわりうるものが示される形式が、人にその違いを気付かせ、そこにある矛盾について考えるよ

うに強制し、議論の「規則」について意識させ、またそうした「論理」を是が非でも発展させるようにしてしまう、といった

ほうがよい（*中略）なぜか。つまり、言われたことが文字に移されるとき、それは細部にわたって点検され、それが全体につ

いても部分についても、前とのつながりについても後とのつながりについても、またその脈絡においても脈絡を離れたもの

としても、検討することができるからである。言い換えればそれは、話し言葉だけによるコミュニケーションには求めること

ができないような、まったく異なったタイプの検討や批評を受けるのである。言葉はもはや一つの「場面」にしばられてはい

ない。それは時を越えたものになる。

ているものに向けての大きな一歩が踏み出されたことを意味している。

こうして単なる話し言葉から書かれた言葉への移行によって、大まかに意識の変化とも呼びうるような種類の重要な発展、そ

して部分的には、図表やリストによる形式的操作を大きく拡張することから生じた重要な発展が導かれると、*グデイは考えている。

読み書き能力あるいはリテラシーを、人は、書物を書く、小説などの文学作品を味読する力のことかと思いがちである。**書物**を正

統視する「意識」がそこにはある。手紙を書く・新聞を読むこともそこを含めてよいかもしれない。しかしそれがリテラシーのすべ

てではない。例えばスーパーで購入するものをメモ帳に列挙するというリストづくりを考えてみよう。これも立派な読み書き能力

の駆使である。しかも買い物リストにはある重要な特徴がある。

買い物リストは個人や集団の未来の予定表、また家計の要求するものに関する行動の時と場所を決める予定表を組み立てるひと

つの方法である（*中略）青物屋で買う品物はひとまとめにし、それらを隣りのパン屋で買う物の次に書くことができる。こう

して「買い物リストはもたぬ正統な未来の行動を表わすように作ることもできるものである。*中略」これらは「中略」「計画」で

あり、しかも全体をまとめあげるメカニズムが具体化することによっていつそう決定的で永続的、かつより包括的で形式的に

なる計画なのである。

つまり買い物リストは、**X** を可視化するものなのである。

しかしそれだけではない。リストには、音声のみのコミュニケーションの場合（以下「口承性」という）とは異なる意識の変化

がみられるのである。

リストは話し言葉を直接的に表わすこととはしない。むしろそれは会話とか演説といった普通の話し言葉形式に見られる連続性

や流れやつながりといったものの対称に位置しており、それらを放棄するかわりにひとつの配列方法を採用して、（ほとんど）

つねに話し言葉が発せられる場である広範な脈絡から概念や言葉の項目を切り離すばかりでなく、たとえば牛、五頭、ロバ、

一四頭、土地、五トナリス、椅子、八脚、テーブル、二卓などといった財産目録で見られるように、各項それぞれを互いに

切り離すのである。

それは物理的な位置づけ、場所というものに依存している。またそれは異なった方向から、つまり横にも縦にも、上からでも

下からでも右からでも左からでも読むことができる。そしてそれは明確な始まりと終わり、つまり布きれのようにつづつとつ

境界線をもっている。最も重要なのはそれが、数や最初の音やカテゴリーなどによって各項を整理秩序づけることを促進する

ことである。そしてこの、外にも内にも境界をもつということが、カテゴリーを非常に見やすいものにし、同時にそれはいっ

リストをより体系的に配列したものが図表といえうが、例えばエクセルで表を作るとき、空白のセルができることをあまり望ましいものと思われは思わないのではないだろうか。「表の配置は言語記憶を組織し、分類やソウキに影響を及ぼし、同時にまた、ある点で純粹に口語的狀況に無縁のものである空白の嫌悪といった認識過程を促進するのである」。さらに図表は、例えばセンサスを考えてみればわかるように、広範囲で多量の情報を組織するにも使うことができるのである。

（出口 題『声と文字の人類学』）

注

*グディ……………ジャック・グディ（1919～2015）。イギリスの社会人類学者。

*センサス……………人口調査。国勢調査。または特定の社会事象について一定時点に「斉に行う全数調査」。

問1

a・bの傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
解答番号は **a** ① **b** ②

- | | | | |
|-------|-------------|----------------|-------------|
| ① カイギ | ア システムのホウカイ | イ カイキュウの念にかられる | ウ ジンカイ戦術をとる |
| | エ カイジンに帰す | オ カイコンの情に堪えない | |
| ② ソウキ | ア 川のフンキ点 | イ イベントをキカクする | ウ 衛星キドウ |
| | エ キリツして挨拶する | オ キシユウ作戦 | |

問2

空欄 **A**・**B**・**C** にはいる語の組み合わせとして、もつとも適切なものを選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **3**

- ア また―――単に―――だから
イ あるいは――いわば―――しりわけ
ウ それでも―――さらに―――あえて
エ なおかつ―――やはり―――それでも
オ しかし―――つまり―――例えば

問3

① 文字という形で記されたことで、それは石や金属、羊皮紙や紙の表面に、物質としてじまゐる。とあるが、それはどのような意義を持つと考えられるか、適切ではないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
解答番号は **4**

- ア メッセージを長期にわたって保存することができる
イ コミュニケーションをより具体的な内容にすることができる
ウ 思考や記憶に頼らないため、伝達内容を固定化することができる
エ 記された話題や議論を精査し、詳細に検討することができる
オ 異なる場面での発言であっても、比較することができる

問4

② 脱脈絡化² とあるが、脱脈絡化について説明したものととして、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **5**

- ア 言葉に脈絡を読み取るうとする意識から解放されること
イ 話し言葉に見られる脈絡のない発話を批判すること
ウ 脈絡という概念ではなく、合理性や論理を重視すること
エ 発話の背後にある脈絡を切り離して表現を独立させること
オ 一度脈絡を離れた上で、再度脈絡を検討し、組み直すこと

問5

③ メソボタミアでは医療が発達していたが、それも文字の効用の例として考えることができる。とあるが、文字が医療の進歩をもたらした理由を説明したものととして、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **6**

- ア 医療現場での診断や治療を受け難いことは、口伝だけでは実現できない別次元の記録・伝承法だから
イ 病気の症状や治療がめまぐるしく変わるのにあわせて、研究成果も随時書き換えるようになったから
ウ 研究成果が文字として記録・整理されることで、病気の症状や治療についての知識が体系化されたから
エ 医療を経験として蓄積していくという行為は、文字のない時代の医療には見られない革新的なプロセスだから
オ 読み書きのできる医者を養成する教育活動によって、科学的で合理的な医療への意識が高まったから

問6

④ 漸進的⁴ の意味として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **7**

- ア 段階を追って少しずつ発達する
イ 今までになかった新しさを持つ
ウ いくつかの要素からなる複雑な構造を成す
エ 困難に伴い、簡単には実現しない
オ それまでの方法を根本からくつがえす

問 7

⑤「書物を正統視する」とあるが、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 8

- ア 書かれた言葉の方が話し言葉よりも重要だと考えること
 イ 書物の価値や意味を正しく理解しているということ
 ウ リテラシーの問題よりも書物自体に注目しているということ
 エ 書物や小説を文字による言語表現の中心と価値づけようとする
 オ 手紙や新聞、リストなどを包括的に書物と定義すること

問 8

空欄 X にはいる内容として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 9

- ア 今後の行動にとって必要な情報をまとめ、記録しておくための貯蔵庫、すなわち記憶
 イ 今後の予定を立て、それに向かって自らの行動を組み立てようとする計画、すなわち意志
 ウ 自分の外部に、行動の時や場所などの家計の必要項目を取り出しておく備忘録、すなわち言葉
 エ リテラシーの一部でありながら、書物や小説ではなく、家計の要求を満たすもの、すなわち現実
 オ 音声コミュニケーションの場合とは正反対の永続的、包括的、形式的な関係、すなわち体系

問 9

⑥普通の話し言葉形式に見られる連続性や流れやつながりといったものの対極に位置しており、とあるが、それはどういうことが、説明としてもっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 10

- ア 話し言葉、普通の書き言葉、リスト・図表と連続的に変化していく言葉の流れの中で、最初期に成立した話し言葉と、最後に誕生したリストとが、もっとも性質として異なっているということ
 イ 話し言葉では、ほぼ同じことを伝えようとしても似たような表現が無数に存在し、その連続的な選択肢から表現を選んでいくが、リストの書き方は一通りしかなく、表現の幅が存在しないということ
 ウ 話し言葉であれば、たとえば「牛」と「五頭」が連続し、つながって発声されるが、リストでは「牛」と「五頭」は分断され、声に出して読み上げられることはないということ
 エ 話し言葉は、私的な会話から公的な演説まで、語り方の差はあっても全体としては共通部分の方が大きく連続的だが、リストの場合は、目的ごとに書式はまったく異なるということ
 オ 話し言葉は時間的な流れの中で発せられるものであるが、リストの場合は時間的な連続性が排され、アルファベット順やカテゴリーといった、抽象的な配列や場所に支配されるということ

問 10

本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 11 ～ 15

- 11 リストは未来の行動を表すためのものであるが、図表はセンサスのように現在や過去の情報を扱うことでもできる
 12 文書の通達による意志下達とリストによる事務処理が、古代メソポタミアの官僚制を支えた
 13 リストが他の書き言葉と異なる点は、読む方向に決まりがなく、どの方向から読んでもいいということである
 14 書き言葉は、情報の貯蔵やコミュニケーションの脱脈絡化を可能にしたが、リストや図表にはそのような機能はない
 15 エクセルで表を作るときに空白のセルができることを望ましく思わない感覚は、本能的に空白を嫌う人間の認識過程によるものである

第二問

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語については、注を参照しなさい。

—— やって来るものを受けとめること。そこに身をゆだねること。

このような*格の主体のあり方は、多くの「名人」「職人」「達人」と言われる人たちによって、さりげなく語られてきました。彼ら・彼女らの多くは、技の極意を問われると、自己の能力を語るのではなく、「やってやる力」を語ります。

染色家で人間国宝の志村くみさんは、繰り返し「色をいたく」という言い方をします。彼女は「色を奏でる」の中で、次のように言います。

ある人が、こういう色を染めたいと思って、この草木とこの草木をかけ合わせてみたが、その色にならなかった、本にかいてあるとおりにしたのに、という。

⑪「順序が逆だ!」と思う。草木がすでに抱えている色を私たちはいたくのであるから、どんな色が出るか、それは草木まかせである。ただ、私たちは草木のもっている色をできるだけ損なわずにこちら側に宿すのである。

志村さんにとって、色は人間が作るものではありません。やって来るものです。染色家にできることは、「色をできるだけ損なわずにこちら側に宿す」ことです。⑫「私」は「色が宿る」「器」のような存在です。

志村さんは、同じ本の中で、「色」を「私のところへやってくる子供のようなものだ」と言います。確かに自分が仕事をし、それによって糸に色が現れます。しかし、それは「どこか一番根元のところではいたくさきもの」であり、「さすかりもの」です。⑬「私」は、色と糸の媒介にすぎません。

このような感覚は、染色の世界にとどまりません。料理家の土井善晴さんも同様のことを語っています。

土井さんは「おいしいもの」を人間が作るという考え方を X します。おいしいはやって来るものであり、「褒美」である。料理人は、素材と料理の媒介にすぎず、自然に沿いながら、それを整えることしかできない。そう語ります。土井さんは、「汁」^①と「菜」^②という食事のあり方を提唱します。これは味噌汁のような「汁物」品と漬物などの「惣菜」品、それに「飯」という組み合わせでいいという考え方です。味噌汁の中には、季節の野菜などを入れます。そして、出汁をとらぬ。味付けは味噌のみで、野菜などの具材の味がそこに加わります。

土井さんは、次のように言っています。

まずは、人が手を加える以前の料理を、たくさん体験するべきですね。それが一汁一菜です。ご飯とみそ汁一つもんが基本です。そこにあるおいしいさは、人間業ではないのです。人の力ではおいしくすることのできない世界です。みそなどの発酵食品は微生物がおいしさをつくっています。ですから、みそ汁は濃くても、薄くても、熱くても、冷たくても全部おいしい。人間にはまずくだることさえできません。そういう毎日の要になる食生活が、感性を豊かにしてくれると、私は考えています。

土井さんが目指す料理は「人間業ではない」料理です。人間にできることは限られている。大切なのは、自然の力を血の上に宿すこと。そこに目すると「おいしい」が現れ、料理が完成する。「お料理を置いたら、盛り付けが終わったら、そこに人間が残ったらいけないんです。人間は、消えてくならないといけない」

土井さんは味噌造りのマイスター・雲田實さんについて、次のように言っています。

「良き酒、良き味噌は人間が作るものではない、俵が作ったなどと思**い**上がる心は強く戒めなければならない」と口癖のように

に言う実直な人柄

良い酒も、良い味噌も、人間の作為性によって作られるものではない。その「おいしさ」は宿るものです。だから、料理人が謙めなければならぬのは、「こんなおいしいものを作ったのは私だ」という思い上がりです。

志村さんと土井さんには、共通点があります。それは「民芸」のあり方に、決定的な影響を受けている点です。

民芸とは「民衆の工芸」の略で、柳宗悦を中心に河井寛次郎、濱田庄司らによって提唱されました。大正時代の終り頃のことです。

民芸の重要性は、その与格性にあります。多くの芸術家は、美しい作品を作ろうとして、素材に向き合います。しかし、同じ形の日用品を作り続けている人は、美しいものを作ろうなんて、いちいち考えていません。毎日の仕事を丁寧、そして淡々とこなします。

柳はここに計らいを超えた「用の美」が現れると言います。美しいものを作ろうとすると、作品は人間の賢しな作為性にまみれ、美が逃げていきます。重要なのは、意思を超えたものが宿ること。美は作るのではなく、やって来るのです。

志村さんは、柳が「法と美」の中で「念仏が念仏す」と述べていることに触れ、次のように言っています。

柳先生はその中で、益子窯の「山水土瓶」の例をとって、ごく平凡な民器であるが、土瓶に山水を描く本人も、何を描き、どう描くかも忘れるほど手早く読みなく何千回、何万回と描き続ける、そういう状態に入った時、描く事が描いているという、つまりおのずから仕事の仕事をしている、人間と仕事がいっしょのまにか一体になっているということをいわれているのである。

人間が仕事と一体化すると、そこから人間の意思が消えていきます。すると、仕事の仕事をし始める。オートマティックに物事

が動いていく。美しいものを作るう」といふ邪念を超えた「美」が宿る。この与格的構造こそが、柳の求めた「民芸」の精神であり、志村さんの色に対するアプローチです。

土井さんも同じく、民芸に大きな影響を受けています。土井さんは、若き日、一流の料理人になろうと考え、ヨーロッパに修業に行きます。そして、帰国後も、和食料理人として腕を磨き、シニョランガイドに載るような料理店を構えることを夢見ます。

しかし、家庭料理の普及に尽力していた父・土井勝から、料理学校を手伝うように言われました。当初は「なんで私が家庭料理をせなあかんの」と落胆し、悩み込んだと言います。しかし、ある出会いによって光が差し込みます。それは、京都にある河井寛次郎記念館との出会いでした。

民芸運動を推進した河井の作品、住まいに開かれたとき、土井さんは「家庭料理は、民芸や」と思ったと言います。

日常の正しい暮らしに、おのずから美しいものが生まれてくるという民芸の心に触れたとき、「ああ、これって家庭料理と一緒に、家庭料理は民芸なんや」という確信が初めて持てた。そう捉えたら、「これはやりがいがある世界や」と思えるようになりました。

土井さんは、ここから大きな方向転換を経験します。「おいしいもの」や「美しいもの」を作ろうとしてはいけない。料理が料理するようにならないといけない。自分の計らいや意思が消え、黙々と仕事に没頭する。そうすると素材が自分に寄り添い、おいしいものが現れる。そんな民芸的料理を指向します。

おいしさや美しさを求めても逃げていくから、正直に、やるべきことをしっかり守って、淡々と仕事をする。すると結果的に、美しいものができあがる。

ここにも与格的な主体のあり方が、表現されています。

(中島岳志『思いがけず利他』)

注

* 与格………文法用語。「AがBにCを紹介す」という文のように、目的語Cをめぐって、A、Bの二人が関係する場合において「Aが」の方、すなわち主語・主体を主格と呼ぶのに対し、「Bに」の方を与格という。

問 1

「a・c」の傍線部と同じ読みの漢字を、それぞれア、イ、ウの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
解答番号は **a 16 c 17**

- | | | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|------|------|
| 16 褒美 | ア 泡雪 | イ 保留 | ウ 法度 | エ 芳香 | オ 信率 |
| 17 尽力 | ア 仁王像 | イ 神通力 | ウ 相続人 | エ 臣下 | オ 陳情 |

問 2

「b」の傍線部とあるが、これと類似した意味を持つ慣用句として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **18**

- ア 乙に澄ます イ 図に乗る ウ 鼻をあかす エ 腕によりをかける オ 大蛇を振るう

問 3

「①」の傍線部は「順序が逆だ」ということであるが、これはどのようなことを言っているのか、説明してもっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **19**

- ア 本来は、よい色を作り出すために細工するのではなく、草木のすでに抱えている色を生かされるままに糸に宿するものだということ
- イ 本来は、得た色をできるだけ損なわずに糸に宿すことに注力するべきなのに、その前段階に注力しているということ
- ウ 本来は、草木のもっている色を信じて色を作るのに、本にかいてあるこの方を信じて望む結果を得られなかったということ
- エ 本来は、草木まかせで色をさすかり、それをできるだけ損なわずに糸に宿すべきなのに、人間の都合で色に優劣をつけているということ
- オ 本来は、草木まかせの色は子供のようになすかるものなのに、理詰めの人のように計算して色を作っているということ

問 4

「②」の傍線部は、「色が生じる器」のような存在です。とあるが、これを土井善晴の場合に置き換えるどのような存在に当たるか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **20**

- ア 謙虚に「汁」の食事の提唱する存在
- イ 人間業ではない料理を実現する力をもつ存在
- ウ 自然の力を皿の上にとどまらせる存在
- エ 仕事と一体化し、効率的に食の美を得る存在
- オ 日常の暮らしの中でおいしいものを目指す存在

問 5

「空欄」にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **21**

- ア 非難 イ 称揚 ウ 是認 エ 否定 オ 嫌忌

問 6

「③」の傍線部は「人間にはまずくすることさえできません」とあるが、この一文の表現意図を説明したものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **22**

- ア 人間がいかに非力であるかを少しおおげさに示して、自然への敬意を表そうとする意図
- イ 人間のできることの下限を明確に示して、その目標とすべきものの高さを表そうとする意図
- ウ 「人間業ではない」ことがいかなることかを示して、与格に甘んじる覚悟を促そうとする意図
- エ 人間の限界と作為のむなしさを示して、実直に料理に向きあうことを強く提唱する意図
- オ いかに微生物の技が確かであることを示して、人間の「思い上がり」の皮相性を明らかにする意図

問 7

「④」の傍線部は「柳宗悦」が武者小路実篤らと共に創刊に加わった雑誌を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **23**

- ア 我楽多文庫 イ 早稲田文学 ウ スバル エ 白樺 オ 新思潮

問 1

「a・c」の傍線部と同じ読みの漢字を、それぞれア、イ、ウの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
解答番号は **a 16 c 17**

- | | | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|------|------|
| 16 褒美 | ア 泡雪 | イ 保留 | ウ 法度 | エ 芳香 | オ 信率 |
| 17 尽力 | ア 仁王像 | イ 神通力 | ウ 相続人 | エ 臣下 | オ 陳情 |

問 2

「b」の傍線部とあるが、これと類似した意味を持つ慣用句として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **18**

- ア 乙に澄ます イ 図に乗る ウ 鼻をあかす エ 腕によりをかける オ 大蛇を振るう

問 3

「①」の傍線部は「順序が逆だ」ということであるが、これはどのようなことを言っているのか、説明してもっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **19**

- ア 本来は、よい色を作り出すために細工するのではなく、草木のすでに抱えている色を生かされるままに糸に宿するものだということ
- イ 本来は、得た色をできるだけ損なわずに糸に宿すことに注力するべきなのに、その前段階に注力しているということ
- ウ 本来は、草木のもっている色を信じて色を作るのに、本にかいてあるこの方を信じて望む結果を得られなかったということ
- エ 本来は、草木まかせで色をさすかり、それをできるだけ損なわずに糸に宿すべきなのに、人間の都合で色に優劣をつけているということ
- オ 本来は、草木まかせの色は子供のようになすかるものなのに、理詰めの人のように計算して色を作っているということ

問 4

「②」の傍線部は、「色が生じる器」のような存在です。とあるが、これを土井善晴の場合に置き換えるどのような存在に当たるか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **20**

- ア 謙虚に「汁」の食事の提唱する存在
- イ 人間業ではない料理を実現する力をもつ存在
- ウ 自然の力を皿の上にとどまらせる存在
- エ 仕事と一体化し、効率的に食の美を得る存在
- オ 日常の暮らしの中でおいしいものを目指す存在

問 5

「空欄」にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **21**

- ア 非難 イ 称揚 ウ 是認 エ 否定 オ 嫌忌

問 6

「③」の傍線部は「人間にはまずくすることさえできません」とあるが、この一文の表現意図を説明したものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **22**

- ア 人間がいかに非力であるかを少しおおげさに示して、自然への敬意を表そうとする意図
- イ 人間のできることの下限を明確に示して、その目標とすべきものの高さを表そうとする意図
- ウ 「人間業ではない」ことがいかなることかを示して、与格に甘んじる覚悟を促そうとする意図
- エ 人間の限界と作為のむなしさを示して、実直に料理に向きあうことを強く提唱する意図
- オ いかに微生物の技が確かであることを示して、人間の「思い上がり」の皮相性を明らかにする意図

問 7

「④」の傍線部は「柳宗悦」が武者小路実篤らと共に創刊に加わった雑誌を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **23**

- ア 我楽多文庫 イ 早稲田文学 ウ スバル エ 白樺 オ 新思潮

問 8 民芸の重要性は、その与格性にあります^⑤とあるが、この「与格性」について説明したものととして、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 24

- ア 日用品を作り続けているうちに、人間の意志を超えた力が働き、美を備えた芸術作品が作れるということ
イ 最初は明確な意図をもって作りはじめたものでも、繰り返し作るうちに意図も作り方も忘れてしまうこと
ウ 美しいものを作ろうと思う気持ちを抑えることで、人間の「計らい」を超えた美に到達できるということ
エ 同じものを作り続ける単純な動作の繰り返しで邪念が消えた時、求める美がわかるということ
オ 作品ではなく、同じものを丁寧に作り続けることによって、人間の作為性を超えた美にあずかれること

問 9 「念仏が念仏す^⑥」とあるが、「仕事が仕事をする」、「料理が料理をする」にならうと、どのように解釈できるか、その説明として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 25

- ア 一心に念仏をとなえ続ければ、人間は念仏と一体となり、願いがかなえられる
イ 念仏をとなえる目的を見失いさしななければ、いつしか願いがかなえられる
ウ ひたすら念仏をとなえるうちに、念仏の奥義を体得し、願いがかなえられる
エ 願いは祈願するほど成就から遠ざかるので、念仏と一体化できるまで待つ
オ 謙虚な暮らしに徹することで真の念仏となり、願いがかなえられる

問 10 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。 解答番号は 26、27、28、29、30

- 26 志村ふくみは、染色家とは草木がすでに宿している色を可能な限り糸へとそのまま橋渡しする役目を担う者と考えている
27 草木と草木を素際にかけ合わせて色を作る前に、書物による先入観に縛られてしまうと、色が宿る「器」になることなど到底できない
28 土井善晴は出汁を取らず、季節の野菜を入れた味噌汁に、人間がひと手間加えることで、おいしく感じさせる料理を目指している
29 正直に、やるべき仕事を淡々と行うことで、おいしさが宿るという土井善晴の考え方には、与格性を重んじる民芸のあり方が影響を与えている
30 柳宗悦や河井寛次郎や濱田庄司らは、「美しいものを作ろう」という邪念を超えた「用の美」を評価する民衆的工芸を提唱した

第三問 次の問いに答えなさい。

問 1 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 31、32

- 31 士気をコスイする
32 恩師にシヤジを述べる
ア 任務をスイコウする
イ ジャズにシンスイする
ウ スイソウ薬部に入る
エ ケンスイ運動をする
ア ヨウシなくしかる
イ ハクシヤを進呈する
ウ 交通をシヤダンする
エ シヤテイ園内に入る

問 2 次の慣用句、四字熟語の空欄 33、34 にあてはまるものを、それぞれア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は X、Y、33、34

- 33 X 車を押す …… 無理を通すという意味
ア 歯 イ 荷 ウ 拍 エ 滑 オ 横
34 Y 急存亡 …… 生き延びるか滅びるかの瀬戸際という意味
ア 至 イ 性 ウ 危 エ 早 オ 火

問 3 「緊張」の対義語として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 35

- ア 弛緩 イ 怠惰 ウ 満喫 エ 収束 オ 鎮静